

平成 30 年度第 2 回 都市農村交流セミナーを開催しました！



基調講演



取組事例紹介（受入側）



取組事例紹介（参加者側）

1. 趣旨

近年、都市住民や訪日外国人観光客を中心として、地域の自然や文化、農山漁村の生活を身近に体験できる都市農村交流への関心が高まっています。

今回は、多様な都市農村交流の形を知るきっかけづくりを目指し、農家と都市住民の深い交流が特徴的な日本型グリーン・ツーリズムのなかでも、他者の目線を借りた気づきが多いと言われている「農村ワーキングホリデー」をテーマにセミナーを開催しました。

2. 開催日時および開催場所

日時：平成 31 年 3 月 6 日（水） 14：00～16：30

場所：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室 2

3. 参加者

行政関係者、都市農村交流実践者など 35 名

4. セミナー内容

●基調講演

「域学連携による農村ワーキングホリデーの取組～若者の力を借りた地域づくり～」

和歌山大学観光実践教育サポートオフィス 特任助教 ^{ふじい} 藤井 ^{いたる} 至 氏

和歌山大学が実施する「域学連携型農村ワーキングホリデー」の仕組みを中心に、地域・大学・学生の役割や、地域と大学の間を取り持つコーディネーターの重要性等についてご講演いただきました。

●事例紹介

「かつらぎ町御所地区での農村ワーキングホリデー実践例」 下垣内農園 ^{しもがいと} 下垣内 ^{やすたか} 泰貴 氏

「わたしの農村ワーキングホリデー体験記」 和歌山大学観光学部 3 年生 ^{しんたに} 新谷 ^{ほのか} ほのか 氏

平成 26 年から農村ワーキングホリデーの受入れを行う下垣内さんからは、交流に取り組む生産者としての想いや学生に従事してもらう作業内容等をご紹介いただきました。また、岩手県奥州市やかつらぎ町御所で農村ワーキングホリデーに参加した新谷さんからは、参加動機や参加後の農業・農村に対するイメージの変化について、体験談を交えながらご紹介いただきました。

5. 参加者の声（一部抜粋）

- ・学生が積極的に農業、農家に接してくれることにこれからの農業に希望がもてた。
- ・農業の労働力は待ったなしの状況で、ワーキングホリデーに取り組む条件はあると思う。一度やってみようという農家とコーディネーターをつくることができれば進められると思う。